

(平成 28 年度の実績評価)

総合計画体系	政策No.	1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	市民部 環境課
	施策No.	5	施策名	生活環境の保全	施策主管課長名	河野 慎介
施策関連課名			戸籍市民課、八田窓口サービスセンター			

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市民 事業所 生活環境	市民が環境保全や地域の美化に関する意識が向上する。 市内の川が綺麗になる。 企業やボランティア団体の市民が、市内の環境や美化に意識を持つようになる。 ごみの分別の意識を持ち、資源の再利用につながり、ごみの減量化となる。
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
① 対象指標	ア 市人口	人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018			
	イ 事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所	見込み値		3,161	3,161	3,161	3,161	3,161	3,161
			実績値	3,161	3,161	3,161				
	ウ		見込み値							
			実績値							
② まちづくり指標	A 平均BOD値が2mg/l以下の河川の割合	%	目標値		未設定	81.0	81.5	82.0	82.5	83.0
			実績値	80.0	88.0	100.0	96.0			
	B 地域美化活動参加者数	人	目標値		19,107	23,000	23,500	24,000	24,500	25,000
			実績値	21,095	20,972	20,920	20,750			
	C アダプトプログラム参加団体数	団体	目標値		16	18	18	19	19	20
			実績値	17	19	19	20			
	D 市民1人1日当たりのごみ排出量	g/人・日	目標値		515	507	501	495	489	483
			実績値	515	565	553	546			
	E 廃棄物のリサイクル率	%	目標値		17.5	16.3	16.6	16.9	17.2	17.5
			実績値	15.6	15.1	14.1	13.3			
まちづくり指標設定の考え方			A: 河川環境の清浄度を示す。 【BOD平均値(年2回調査)が2mg/l以下の河川数÷調査河川数(25河川)×100】 B: 環境保全意識の定着を示す。 【地域清掃等への参加者総数】 C: 団体・企業等による環境保全活動の取り組みを示す。 【登録団体総数】 D: ごみの排出量削減の取り組みを示す。 【ごみ年間総排出量(g)÷人口(3月31日現在)÷365日】 E: 循環型社会への取り組みを示す。 【年間資源ごみ総排出量÷年間家庭系ごみ総排出量×100】							
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方)			A: 環境基本計画策定時の現況値(76%)を基に5年間で約5%の上昇を見込む。 B: H24年度実績(23,231人)を基に5年間で約10%の参加者増(H24年度比)を目指し目標値を設定。 C: 現況地を基に5年間で約20%の参加者増を目指し目標値を設定。 D: 一般廃棄物処理基本計画に基づき、H24年度実績(520g/人・日)から約7%減で目標値を設定。 E: H24の県平均17.5%を目標値に設定。							

3 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	37	36	35	35	36		
関連事業予算額(単位:千円)	1,007,802	961,236	940,325	928,907	944,186		
(予算額の内訳)	国庫支出金	2,652	3,730	2,938	3,730	3,730	
	県支出金	37,876	4,990	4,770	5,414	5,874	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	62,543	61,757	72,510	69,768	67,611	
	一般財源	904,731	890,759	860,107	849,995	866,971	

4 評価結果(施策の有効性評価)

① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)

- 目標値より高い実績値だった
 目標値どおりの実績値だった
 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

・河川環境の清浄度を示すBOD値は、目標値81.5%に対し実績値96%で目標を上回った。また、地域美化活動の参加者数及び、アダプト・プログラム参加団体数は、ほぼ横ばい状況である。
 ・ごみ全体の排出量は微減傾向にあり、「市民1人1日当たりのごみ排出量」も若干減少したが、目標に対して45g下回った。また、「廃棄物のリサイクル率」は3.3ポイント下回った。

② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較)

- 成果がかなり向上した
 成果がどちらかと言えば向上した
 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)
 成果がどちらかと言えば低下した
 成果がかなり低下した

※左記の理由

・地域美化活動参加者数及び、アダプト・プログラム参加団体数は、ほぼ横ばい状況である。
 ・廃棄物の収集量はほぼ横ばいに推移してきたが、平成25年度に南北の資源回収センターを開設したことに伴い、ごみの全体量が激増し「市民1人1日当たりのごみ排出量」が増加した。このため、「廃棄物のリサイクル率」の向上には繋がらなかった。
 また、平成28年度は、ごみの全体量が若干減少したものの成果は横ばい状況にある。

③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
 どちらかと言えば高い成果水準である
 ほぼ同水準である
 どちらかと言えば低い成果水準である
 かなり低い成果水準である

※左記の理由

・人口規模や収集体系など各自自治体が独自の施策を展開しており、一概に比較できないが、ほぼ同程度の状況であると考えている。しかし、資源回収センター方式で廃棄物の収集を行なうことにより、収集量の増加と市民の利便性の向上に繋がっている。
 ・散乱ごみや不法投棄対策として、アダプト・プログラム事業を展開していることにより、環境保全の意識向上に繋がっている。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
 どちらかと言えば高い成果水準である
 ほぼ同水準である
 どちらかと言えば低い成果水準である
 かなり低い成果水準である

※左記の理由

・河川環境の清浄度を示すBOD値が96%であったことは、市民の生活環境の保全に繋がっている。また、地域美化活動参加者数及び、アダプト・プログラム参加団体数は、横ばい状況で推移している。
 ・ごみ全体の排出量は微減傾向にあり、それに伴って「市民1人1日当たりのごみ排出量」及び、「廃棄物のリサイクル率」も若干減少傾向にあるが、全体的には、ほぼ同程度で推移している。

5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
ごみの減量化とリサイクルに対する市民の意識が低い	環境教育の推進	・地域(自治会等)と連携して、ごみ減量化とリサイクルの推進についての説明会を行なう。 ・次代を担う子ども達への環境教育として、「南アルプス市のごみ行政」について、教育委員会と連携して市内の小中学生を対象とした出前講座を開催する。
	3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進	ごみの減量やリサイクルの推進のためには、意識を持って努力・行動することが必要である。 このため、ごみの発生抑制、再利用及び再資源化の取り組みの推進のため、市の広報媒体を活用した周知とともに、地域との連携による排出実態の把握や排出ルールの徹底に努める。